

I 組織の使命

観光部のミッション（使命）は、

「函館市観光基本計画」に掲げる基本理念「人・まち・文化の宝石箱新・国際観光都市 函館へ」を実現することです。

観光を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、市および関係団体・関係機関が連携し、市民との協働を図りながら、柔軟かつ効果的に施策を展開します。

II 組織の基本方針

○ ポストコロナを見据え、本市の基幹産業の一つである観光業の再生・活性化のため、次の6項目を基本方針として、積極的な取り組みを進めます。

- ・ 地域基盤構築
- ・ ビジョンの発言
- ・ 課題抽出と対策立案
- ・ 観光力の向上
- ・ 魅力発信と誘客促進
- ・ 地域間連携

III 年度評価 総評

令和4年度(2022年度)においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業の中止や変更を余儀なくされたところですが、感染状況や観光関連事業者の意見等を踏まえて、ポストコロナを見据えた観光施策や各種誘客促進事業を実施しました。

国内観光客については、非接触型の観光プロモーションとして、函館発偉人アイドルグループ「HAKOMEN」を活用したWebやSNS等による情報発信を行ったほか、宿泊料金助成「はこだて割」の実施など、落ち込んだ観光需要の喚起に取り組みました。外国人観光客については、水際対策が大幅に緩和され観光目的の海外往来が再開されたことから、台湾トッププロモーションを実施し、運休中である直行便の早期再開要請を行った。

また、関係機関と協議の上、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じながら、3年ぶりに「箱館五稜郭祭」や「函館港まつり」、「はこだてグルメサーカス」などの主要イベントを開催したほか、縄文文化に関する通訳ガイドの育成、他都市との広域連携による周遊観光の促進などに努めました。

今後においても、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、観光需要の回復を図るとともに、ポストコロナを見据えた観光施策の実施により、地域経済の活性化に向けて取り組んでまいります。

区 分	担当課	評価	評価の説明
1 地域基盤構築			
<ul style="list-style-type: none"> 市と地域の観光振興の中核を担う函館国際観光コンベンション協会との役割分担の見直しと連携強化により、効果的かつ機動的な観光施策推進体制の確立を目指します。 	観光企画課	B	<ul style="list-style-type: none"> 函館国際観光コンベンション協会と、ポストコロナを見据えた函館観光と観光推進体制について意見交換を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 市内外の関係機関等との積極的な情報交換・交流を図り、情報ネットワークの拡充・強化に努めます。 	観光企画課	B	<ul style="list-style-type: none"> 市内の観光関連団体に対して支援制度等の情報を発信したほか、観光客の動向の聞き取りやアンケート調査を行うなど、積極的な情報収集に務めた。
<ul style="list-style-type: none"> ポストコロナを見据えた新たな観光人材育成事業を検討します。 	観光企画課	B	<ul style="list-style-type: none"> 喫緊の課題としての人手不足の状況や、将来の担い手不足への課題意識を聞き取り、共有した。
2 ビジョンの発信			
<ul style="list-style-type: none"> 施策実施に係る基本方針等について、観光関連団体等と情報共有するとともに、次期観光基本計画策定に向けた調査を行います。 	観光企画課	B	<ul style="list-style-type: none"> ポストコロナを見据え、令和5年度(2023年度)予算編成時には、函館観光の再生・活性化について基本方針を定め、観光関連団体と共有を図った。 次期観光基本計画の策定に向けた基礎的な調査を実施した。
3 課題抽出と対策立案			
<ul style="list-style-type: none"> ポストコロナを見据え、観光関連団体等からの意見聴取や、観光客へのアンケート調査を実施し、課題解決等に向けた各種施策を立案・展開します。 	観光企画課	B	<ul style="list-style-type: none"> 観光事業者からの聞き取りや各種の調査を行い、ポストコロナ時代のトレンドを意識した誘客施策として体験観光施策の立案を行ったほか、令和5年度(2023年度)の次期観光基本計画策定に先立ち、函館観光の基礎的な調査を実施した。 今後の施策の参考とするため、来函観光客を対象としたアンケート調査を実施した。
4 観光力の向上			
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況によって国や北海道から示される開催方針、基準などを踏まえ、イベントの開催方法や内容を検討し、ウィズコロナにおける安心して楽しめるイベントを計画・実施するとともに、その情報発信などを行います。 	観光振興課	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症へのイベントとしての対応が見えてきたことから、関係機関と協議し、イベントへの参加団体や感染状況などの実情に応じた内容で「箱館五稜郭祭」を皮切りに「函館港まつり」、「はこだてグルメサーカス」、「はこだてクリスマスファンタジー」など主要なイベントを実施し、その情報発信に努めた。
<ul style="list-style-type: none"> 様々なイベント主催者などとの連携を深めながら、賑わいと活気の溢れる「フェスティバルタウン」としての認知度の向上やイベント関係者のコミュニティの活性化などを進めます。 	観光振興課	B	<ul style="list-style-type: none"> イベント情報サイト「函館イベントガイド」において、3年ぶりに実施された「箱館五稜郭祭」や「函館港まつり」、「はこだてグルメサーカス」などの内容を情報発信をするとともに、各種イベントのPRに努めた。
<ul style="list-style-type: none"> 国内外の観光客に訴求する地域の新たな魅力の掘り起こしや、ポストコロナを見据えた受入環境整備を進めます。 	全課	B	<ul style="list-style-type: none"> 公式観光情報サイト「はこぶら」において、函館を舞台とした漫画作品や函館でロケを行ったCM等に関する情報発信を行ったほか、函館の酒や絶景スポット、サウナ等に関する情報発信を行うなど、新たな魅力の掘り起こしを図った。 北海道歴史倶楽部(松前町、江差町、上ノ国町)と連携し、歴史をテーマとした広域観光ルートを造成したほか、本市のインバウンドのボリュームゾーンである台湾や中国に対応するガイドが不足していることから質の高い中国語ガイドの育成を図るため、渡島総合振興局と共催で研修会を開催した。

区 分	担当課	評価	評価の説明
5 魅力発信と誘客促進			
<ul style="list-style-type: none"> 世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」を国内外に広くPRし、観光資源としての活用を推進します。 	観光誘致課	B	<ul style="list-style-type: none"> 縄文遺跡群を軸に新千歳・函館間の噴火湾沿いを中心とした広域周遊ドライブルートを構築し、新規WEBコンテンツとして市観光情報サイト「はこぶら」で発信した。 市街地から縄文関連施設へのアクセス改善と利用者ニーズを検証するため「縄文遺跡群アクセスバス」の実証運行を実施した。 (受託先：函館バス(株)) 雑誌「北海道生活」とのタイアップ企画として、縄文遺跡群をメインに東部4地域の観光情報に関する特集記事を掲載した。
<ul style="list-style-type: none"> 函館発偉人アイドルグループ「HAKOMEN」を活用したWebやSNSなどによる観光プロモーションや教育旅行の受入環境のPRなど、ウィズコロナにおける効果的な誘客促進策を立案・展開します。 	観光誘致課	B	<ul style="list-style-type: none"> 「HAKOMEN」を活用した観光プロモーションでは、WebやSNS等で「景観」、「食」、「歴史」といった函館観光の魅力について発信したほか、デジタルスタンプラリーの実施により直接的な誘客を図るなど、一体的なPRを実施した。
<ul style="list-style-type: none"> 観光需要拡大にかかる施策を展開するほか、インバウンドの段階的な回復に向け、効果的な海外プロモーションの手法について検討を進めます。 	観光誘致課 国際観光課	B	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊料金助成「はこだて割」の実施により全国からの誘客促進および需要拡大を図ったほか、海外プロモーションについては、水際対策が大幅に緩和され、観光目的の海外往来が再開されたことから、台湾トッププロモーションを実施し、運休中である直行便の早期再開要請を行ったほか、SNSを活用したデジタルプロモーションを実施し、来函意欲の向上を図った。
<ul style="list-style-type: none"> ウィズコロナ・ポストコロナにおけるMICE開催の手法に係る情報収集ならびに効果的な誘致・支援に努めます。 	観光誘致課	B	<ul style="list-style-type: none"> 道MICE誘致推進協議会主催の商談会や国際MICEエキスポ(IME)への参加により積極的なPR活動を実施した結果、数年後に当市での開催が有望な案件を獲得した。併せて、学会事務局などを個別訪問するなどして当市の情報提供を行うとともに、MICE開催に係る受入側へのニーズなどについて情報収集を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ウィズコロナに対応した映画、ドラマなどのロケ支援や誘致を図るとともに、ロケ地めぐりなどを通じた観光誘客に努めます。 	観光振興課	B	<ul style="list-style-type: none"> 交通アクセスの良さなどからテレビ番組やCM、写真集などの撮影が行われ、撮影支援件数は133件と堅調であった。 ロケ誘致に関する商談会に参加し、函館のロケ地としての魅力のPRに努めた。

区 分	担当課	評価	評価の説明
6 地域間連携			
<ul style="list-style-type: none"> 東日本の新幹線沿線地域や東北地域等と連携し、国内外からの誘客を図るための広域観光ルートの形成に努めます。 	観光誘致課	B	<ul style="list-style-type: none"> 北海道新幹線新駅沿線協議会では、「はこだて旅するパスポート」を発行し、近郊エリアの周遊促進を図ったほか、函館・津軽・秋田広域観光推進協議会においては、周遊ガイドの作成やデジタルスタンプラリーを実施し、連携エリアのプロモーションに努めた。 新幹線沿線地域等の教育旅行を主に取扱う旅行代理店へ関連資料を配付するなど、情報発信を行った。
<ul style="list-style-type: none"> 青森市、弘前市等と連携し、青函圏の魅力を広く発信するとともに誘客の強化に努めます。 	観光誘致課	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍によるイベント中止等により、青森市との関西圏共同プロモーションは実施できなかったが、青函4市連携では、はこだてグルメサーカスでの共同プロモーションを実施した。 弘前市との2市連携では、雪ミクを活用した「ひろはこ冬の観光キャンペーン」を実施し、青函圏への誘客や周遊の促進を図った。
<ul style="list-style-type: none"> 札幌市および登別市と連携し、3市の魅力を発信し、誘客・周遊の促進を図るなど、「北海道ドラマティックロード」の構築に向けた取り組みを進めます。 	観光誘致課	B	<ul style="list-style-type: none"> SNSを活用した3市の魅力発信キャンペーンやPR動画の配信、3市のナイトタイムコンテンツの訴求等により、広域観光ルート「北海道ドラマティックロード」の認知度の向上および3市への誘客・周遊の促進を図った。